

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671800427		
法人名	医療法人 一樹会		
事業所名	グループホーム サンファミリー		
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原1354番地2		
自己評価作成日	平成22年8月15日	評価結果市町村受理日	平成21年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671800427&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671800427&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年10月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所独自の理念に「私たちは、皆さまの尊厳と誇りを大切に、ゆったりと・自分らしく・自由な暮らしが継続出来るよう常に寄り添いさせていただきます。地域と連携しながら、皆さまが住み慣れたその地で、自分らしく暮らし続けることができるよう援助します。」を掲げて日ごろの実践に取り組んでいる。理念にそって地域との交流と連携を図りながら利用者の生活圏を社会へ拡大し、住み慣れた地域でその人らしい暮らしができるよう支援している。また、医療機関との連携を密に図り、健康で安心した生活を送ることができるように努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は母体法人の医療機関に隣接していて、玄関には季節を感じさせるやさしい色のコスモスがそれとなく生けられている。職員の明るい笑顔で迎えられ、広い共用空間は外の見晴らしもよく、また地域とのつながりも深く、多くの来訪者がある。「ゆっくりと・自分らしく・自由な暮らしが継続出来る」という理念にそったケアに取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングや申し送りなど、機会あるごとに理念について職員間で話し合い確認している。管理者と職員は理念を共有し、利用者が地域の中でその人らしく暮らすことができるように日ごろからケアに取り組んでいる。	理念について、ミーティングや申し送り時に話し合っている。「ゆっくりと・自分らしく・自由な暮らし」という理念を常に振り返り、ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会や小学校との交流を図っている。	日ごろの暮らしの中で町内会や老人会の方と交流を図っている。また、小学校の児童が来訪し、イモ堀り体験等を通してふれあいを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて得た、認知症ケアに関する知識や取り組みへの経験のなかから、イキイキサロン等を活用し、地域交流の機会を通して高齢者の暮らしに少しでも役立てられるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者や家族、市担当職員、地域住民に参加してもらい、暮らしの状況を報告している。参加者から意見やアドバイスをもらってサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議では、報告や情報交換を行っている。参加者から意見を出してもらい、サービスの質の向上に活かしている。議題によって、警察や消防署などそのつど必要な関係者に参加してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会あるごとに介護保険課や生活福祉課を訪問するなどして、事業所の課題を報告したり、助言や指導を受けながら、改善やサービスの質の向上に取り組んでいる。	日ごろから機会あるごとに担当窓口に出向き、事業所の取り組み状況を報告して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準における禁止11項目を確認し、全職員が身体拘束の弊害を理解している。高齢者の権利擁護等について議論するなどして、職員共有の認識のもとに身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて、全職員が意識を共有している。裏玄関を常に開錠し、地域住民の理解を得ながら拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法に定められた虐待の定義や虐待の早期発見に関する情報等を学習し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について家族に説明し、必要に応じて適切に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、利用契約書および重要事項をていねいに説明し、理解と納得のうえ同意を得ている。その後も、状況に応じてそのつど説明を行って、家族の同意・確認をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見や苦情等はいつでも気軽に相談できるような機会と体制を整え、出された意見や苦情等を事業所の運営に反映できるよう努めている。	利用者や家族が、意見や要望等を気軽に相談できる体制を整備し、運営推進会議で出された意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、ミーティングやケース会議を開催し、運営に関する意見や提案を職員から聞き取って、現場の意見や考えを尊重しながら事業所運営に反映できるように努力している。	管理者は、運営や管理について職員の声に耳を傾け、出された意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定められた労働時間を厳守し、職員の休養が確保できる休日体制を整備している。働きがいのある職場環境や、労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験者・未経験者を問わず、事業所の理念にそった人材を育成するために、継続的に研修会へ参加する機会を確保している。日ごろの業務の中で介護理念や技術等を習得できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、管理者同士が相互に意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の、生活に対する不安や戸惑いを理解し、相談から入居までの過程において、本人の意向や希望を聞き取る機会を多く持ち良好な関係づくりに努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等を聞き、問題の解決に結びつけることができるように信頼関係の構築に努めている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時から本人や家族の支援を見極め、必要に応じて医療面でのサービスを提供している。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、調理や掃除等の日常生活を利用者とともに過ごしており、相互に支え合える関係の構築に努めている。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族とともに利用者を支えていくという共通認識に立って支援している。何事も家族に相談し、意向を尊重するように努めている。家族とともに本人を支えることのできる関係の構築に努めている。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みのお店や美容院へ出かける利用者がいる。友人や知人の来訪時には湯茶をもてなし、話がスムーズにできるようにきっかけをつくっている。	本人のこれまでの生活歴を把握し、馴染みの店や美容院へ出かけている。友人の来訪時には湯茶でもてなし、関係が途切れないように支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性や特徴を把握している。気の合う利用者同士が楽しく過ごせる場面や皆が孤立せず過ごせる時間をつくっている。利用者同士の良好な関係により、支え合って生活できるよう職員が調整役となっている。				

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も連絡をとり、様子をたずねるなどして関係の継続に努めている。				
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。	本人が何をしたいか、何を求めているのかをしっかりと利用者と向き合って意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、職員が働きかけている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報台帳を活用し、利用者のこれまでの生活情報の把握に努めている。生活歴を把握する意味と重要性を本人や家族に十分説明し、プライバシーに留意しながら聞き取りを行っている。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「できないことよりできること」に注目しながら、本人の生活能力の把握に努めている。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族、関係者から聞き取りを行い、本人の状態や生活習慣、好み、意向、希望等を反映した介護計画を作成するよう努めている。定期的にモニタリングを行い、現状に応じた介護計画となるよう変更している。	日ごろの関わりの中で思いや意向を聞き、介護計画に反映させている。また、現状に即した介護計画となるよう変更している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成して、日ごろの生活の様子や心身の状態変化等を記録している。気づきや工夫等はチームで共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の実情に応じて、買い物や送迎や受診介助の支援など、臨機応変に対応している。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向を最大限に尊重しながら、地域社会と交流できるように努めている。ボランティアの受け入れを行い、ともに支え合える関係づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族と話し合い、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の希望を大切に、話し合っ適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の医療機関の看護職員と連携を図り、利用者の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と相談しながら医療機関に利用者の情報を提供している。入院や退院が円滑に進められるように取り組んでいる。退院後のケアについて、家族や医療機関と情報交換しながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から家族や主治医と相談し、適切な対応ができるよう方針を共有している。終末期のケアについて本人や家族の意思を最大限に尊重し、支援に取り組んでいる。	重度化した場合や、終末期に向けたケアについて入居時に説明をし、話し合っている。本人や家族の意思を最大限に尊重し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応への研修会や訓練を実施し、技術の習得に努めている。全職員が事故や火災等に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練や通報訓練、消火器の使用訓練等を定期的に行っている。運営推進会議で地域の協力を呼びかけている。	年2回、定期的な訓練や併設事業所との合同訓練を実施している。地域の自主防災訓練に参加するなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念に「利用者の誇りや尊厳を大切に」と明記している。勉強会を開催し、個人情報保護法や情報の漏洩防止について話し合い、職員の知識と意識向上を図りながら利用者のプライバシー保護に努めている。	「利用者の誇りや尊厳を大切に」という理念にもとづき、プライバシーを損ねないケアを実践している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望、好みを表出できるような雰囲気づくりを行うとともに、なるべく自分の意思で希望や願いを決定できるよう働きかけている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決めごとを押し付けるのではなく、利用者にとってより好ましい暮らしの支援ができるよう取り組んでいる。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの好みに応じたヘアスタイルや衣服、化粧をするなど、おしゃれや身だしなみで個性を発揮できるように支援している。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、配膳などを利用者と一緒に行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを心がけている。	利用者と職員が同じテーブルを囲み、和気あいあいのうちにと話をしながら楽しく食事ができるような雰囲気づくりをしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分・栄養摂取量は、栄養士が管理している。カロリーの過不足や偏りがないよう、毎日の摂取量を記録して食生活を支援している。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや義歯洗浄等を支援し、口腔内の清潔保持に努めている。				

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。オムツを使用する利用者もトイレで排泄ができるよう排泄の自立に向けた支援を行っている。	チェックシートを活用し、トイレ誘導をしながら排泄の自立に向けて支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食物や乳製品の摂取、水分補給を行っている。また、散歩やラジオ体操等、日中の運動を心がけながら便秘の予防に努めている。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望にそって入浴できる体制を整えている。プライバシーや羞恥心に配慮し、衣服の着脱や入浴の見守り介助は本人の気持ちや習慣にあわせて支援している。	一人ひとりの希望にそった入浴を支援している。衣服の着脱や入浴の見守り介助は、一人ひとりに合わせて支援している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠チェックシートを活用して、パターンや生活習慣を把握して一人ひとりに応じた生活リズムづくりと、安眠導入に向けて支援している。日中、利用者の疲労度に応じて休息が取れるよう配慮している。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法用量を全職員が把握し、服用時の確認を行っている。また、服薬による変化等が見受けられる際には、その情報を家族や医師に連絡して、適切な対応ができるよう支援している。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日ごろの生活のなかで、利用者の役割や楽しみごとを見つけ出し、経験や知恵を生活の場に発揮しながら自分らしい暮らしができるよう支援している。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の習慣や楽しみごとに合わせた、外出の機会をつくっている。買い物や散歩に出かけたり草花や菜園の手入れなど、戸外に出て気分転換をしながら屋外活動が楽しめるよう支援している。	量販店への買い物や散歩、農園の手入れ等、戸外に出て気分転換を図りながら日常的に外出を支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者が自分でお金を持つことの大切さを認識し、家族と相談して少額を自己管理してもらうようにしている。自己管理の困難な方には、家族の希望を聞いて事業所が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話は、利用者の力に応じて支援している。コードレス電話を使用し、利用者のプライバシーに配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は台所と対面しており、ご飯や煮物の匂いで五感を刺激し、家庭の雰囲気を感じながら生活できるように工夫している。また事業所内には、四季折々の草花を飾るなどして季節感を感じることができるように工夫している。	事業所内にコスモスの花が飾られ、季節感を取り入れている。また、共用空間ではご飯や煮物の匂いが五感を刺激し、家庭的な雰囲気を味わいながら生活できるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下等のコーナーにソファや椅子、簡易のタタミ等を設置して、利用者が一人で過ごしたり、仲のよい方同士でくつろげるよう居心地のよい生活空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手作りカレンダー等を居室に飾るなどして、自分らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の写真や手作りカレンダー等を居室に飾るなど、自分らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、居室内には手すりを設置している。また、居室からベッドを取り除き、マットを使用するなどして安全の確保に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングや申し送りなど、機会あるごとに理念について職員間で話し合い確認している。管理者と職員は理念を共有し、利用者が地域の中でその人らしく暮らすことができるように日ごろからケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の老人会や小学校との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて得た認知症ケアに関する知識や取り組みへの経験のなかから、イキイキサロン等を活用し、地域交流の機会を通して高齢者の暮らしに少しでも役立てられるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者や家族、市担当職員、地域住民に参加してもらい、暮らしの状況を報告している。参加者から意見やアドバイスをもらってサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに介護保険課や生活福祉課を訪問するなどして、事業所の課題を報告したり、助言や指導を受けながら、改善やサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準における禁止11項目を確認し、全職員が身体拘束の弊害を理解している。高齢者の権利擁護等について議論するなどして、職員共有の認識のもとに身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法に定められた虐待の定義や虐待の早期発見に関する情報等を学習し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について家族に説明し、必要に応じて適切に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、利用契約書および重要事項をていねいに説明し、理解と納得のうえ同意を得ている。その後も、状況に応じてそのつど説明を行って、家族の同意・確認をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見や苦情等はいつでも気軽に相談できるような機会と体制を整え、出された意見や苦情等を事業所の運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、ミーティングやケース会議を開催し、運営に関する意見や提案を職員から聞き取って、現場の意見や考えを尊重しながら事業所運営に反映できるように努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定められた労働時間を厳守し、職員の休養が確保できる休日体制を整備している。働きがいのある職場環境や、労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験者・未経験者を問わず、事業所の理念にそった人材を育成するために、継続的に研修会へ参加する機会を確保している。日ごろの業務の中で介護理念や技術等を習得できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、管理者同士が相互に意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の、生活に対する不安や戸惑いを理解し、相談から入居までの過程において、本人の意向や希望を聞き取る機会を多く持ち良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等を聞き、問題の解決に結びつけることができるように信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時から本人や家族の支援を見極め、必要に応じて医療面でのサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、調理や掃除等の日常生活を利用者とともに過ごしており、相互に支え合える関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族とともに利用者を支えていくという共通認識に立って支援している。何事も家族に相談し、意向を尊重するように努めている。家族とともに本人を支えることのできる関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みのお店や美容院へ出かける利用者がある。友人や知人の来訪時には湯茶をもてなし、話がスムーズにできるようにきっかけをつくっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性や特徴を把握している。気の合う利用者同士が楽しく過ごせる場面や皆が孤立せず過ごせる時間をつくっている。利用者同士の良好な関係により、支え合って生活できるよう職員が調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も連絡をとり、様子をたずねるなどして関係の継続に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報台帳を活用し、利用者のこれまでの生活情報の把握に努めている。生活歴を把握する意味と重要性を本人や家族に十分説明し、プライバシーに留意しながら聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「できないことよりできること」に注目しながら、本人の生活能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族、関係者から聞き取りを行い、本人の状態や生活習慣、好み、意向、希望等を反映した介護計画を作成するよう努めている。定期的にモニタリングを行い、現状に応じた介護計画となるよう変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成して、日ごろの生活の様子や心身の状態変化等を記録している。気づきや工夫等はチームで共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の実情に応じて、買い物や送迎や受診介助の支援など、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向を最大限に尊重しながら、地域社会と交流できるように努めている。ボランティアの受け入れを行い、ともに支え合える関係づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族と話し合い、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の医療機関の看護職員と連携を図り、利用者の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と相談しながら医療機関に利用者の情報を提供している。入院や退院が円滑に進められるよう取り組んでいる。退院後のケアについて、家族や医療機関と情報交換しながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から家族や主治医と相談し、適切な対応ができるよう方針を共有している。終末期のケアについて本人や家族の意思を最大限に尊重し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応への研修会や訓練を実施し、技術の習得に努めている。全職員が事故や火災等に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練や通報訓練、消火器の使用訓練等を定期的に行っている。運営推進会議で地域の協力を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念に「利用者の誇りや尊厳を大切に」と明記している。勉強会を開催し、個人情報保護法や情報の漏洩防止について話し合い、職員の知識と意識向上を図りながら利用者のプライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望、好みを表出できるような雰囲気づくりを行うとともに、なるべく自分の意思で希望や願いを決定していけるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決めごとを押し付けるのではなく、利用者にとってより好ましい暮らしの支援ができるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの好みに応じたヘアスタイルや衣服、化粧をするなど、おしゃれや身だしなみで個性を発揮できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、配膳などを利用者と一緒に行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分・栄養摂取量は、栄養士が管理している。カロリーの過不足や偏りがないよう、毎日の摂取量を記録して食生活を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや義歯洗浄等を支援し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。オムツを使用する利用者もトイレで排泄ができるよう排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食物や乳製品の摂取、水分補給を行っている。また、散歩やラジオ体操等、日中の運動を心がけながら便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望にそって入浴できる体制を整えている。プライバシーや羞恥心に配慮し、衣服の着脱や入浴の見守り介助は本人の気持ちや習慣にあわせて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠チェックシートを活用して、パターンや生活習慣を把握して一人ひとりに応じた生活リズムづくりと、安眠導入に向けて支援している。日中、利用者の疲労度に応じて休息が取れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法用量を全職員が把握し、服用時の確認を行っている。また、服薬による変化等が見受けられる際には、その情報を家族や医師に連絡して、適切な対応ができるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日ごろの生活のなかで、利用者の役割や楽しみごとを見つけ出し、経験や知恵を生活の場に発揮しながら自分らしい暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の習慣や楽しみごとに合わせた、外出の機会をつくっている。買い物や散歩に出かけたり草花や菜園の手入れなど、戸外に出て気分転換しながら屋外活動が楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者が自分でお金を持つことの大切さを認識し、家族と相談して少額を自己管理してもらうようにしている。自己管理の困難な方には、家族の希望を聞いて事業所が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話は、利用者の力に応じて支援している。また、携帯電話が使用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は台所と対面しており、ご飯や煮物の匂いで五感を刺激し、家庭の雰囲気を感じながら生活できるように工夫している。また事業所内には、四季折々の草花を飾るなどして季節感を感じることができるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下等のコーナーにソファや椅子を設置し、利用者が一人で過ごしたり、仲のよい方同士でくつろげるように居心地のよい生活空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手作りカレンダー等を居室に飾るなどして、自分らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、居室には手すりを設置している。また、居室からベッドを取り除き、マットを使用するなどして安全の確保に努めている。		